

我が家の家庭果樹



大川普及センター
掛鍋 吉洋

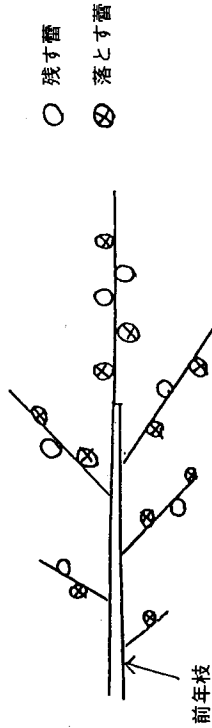
同じ育てるなら大きくておいしい果実を育てたいと思います。いませんか。そんな方には、次の作業をお勧めします。

1. 摘蕾

果実を大きくするための簡単な方法は、果実1つを育てる葉数を多くすることです。つまり果実を減らすことです。開花までに人為的に蕾を減らすことを摘蕾といい、これを行うことで果実は大きくなります。ただし、枝の伸長とのバランスもありますので過度の摘蕾は禁物です。

かき

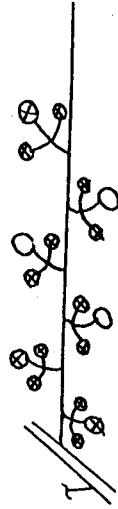
基本的には、1枝に1蕾程度にしますが、長い枝は2蕾にするなど樹勢により強弱をつけます。枝の中心にある大きい蕾を残します。



前年枝

キウイフルーツ

基本的には、1枝に3蕾程度にします。キウイフルーツは、通常、1カ所に3つの蕾が着きます。中心にやや大きい蕾が1つ、その両側に2つの蕾が着くので、中心の蕾を1つ残します。それでも多い場合は、枝の基部と先端部から摘蕾を行います。



● 残す蕾
⊗ 落とす蕾

2. 摘果

摘蕾と同様な理由で行います。満開後1ヶ月頃から小さい果実、傷のある果実、形のおかしい果実を中心に摘果します。時期が早ければ果実を大きくする効果も高くなりますが、一度に行なうのではなく2~3回に分けて行い、生理落果が終了してから最終的に調整します。

もも

満開後1ヶ月頃に最終摘果量の2~3倍程度にしておき、満開後2ヶ月頃までに次のようにします。



○長果枝 (30~50cm)
中央から先に2~3果



○中果枝 (10~30cm)
中央から先に1~2果

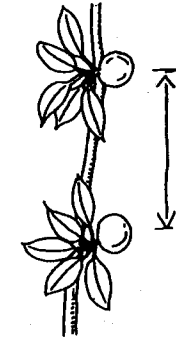


○短果枝 (10cm以下)
3本に1果

最終の着果程度

すもも

満開後1ヶ月頃に最終摘果量の2倍程度にしておき、満開後2ヶ月頃までに品種に応じて次のようにします。



最終の着果程度

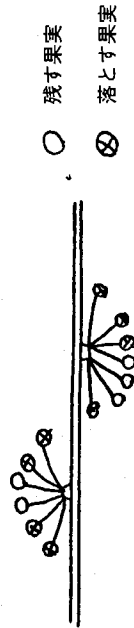
小玉品種 (メスレー等) 4~5 cm間隔

中玉品種 (大石早生、ビュティ等) 6~8 cm間隔

大玉品種 (サンタローザ、ソルダム等) 8~12 cm間隔

おうとう

1カ所から多くの花が花束状に咲く(花束状短果枝)ので、満開1ヶ月頃までに1カ所当たり2~3果に摘果します。



○ 残す果実
⊗ 落とす果実